

## トルコ サクランボに深刻な降霜被害

[FreshPlaza](#) 2025年4月18日

「標高の高い園地の一部では潜在的なサクランボ収穫量の最大50～70%が失われた」

トルコのサクランボ輸出業者ポレクス社の輸出事業責任者であるエミルハン・シャヒノズ氏は、トルコ西部のサクランボとリンゴの果樹園について、次のように述べた(以下「」は同氏の話)。「この春は特に厳しかった。4月上旬から中旬にかけて、トルコ西部の多くの地域、特にサリフリ(マニサ県)、ウスパルタ県、アフイオンカラヒサル県などの標高の高い地域で、突然の厳しい降霜があった。弊社のマニサ県のサクランボ園とテキルダー県のリンゴ園では、満開時の気温が-4℃から-7℃まで下がったが、これはどちらの作物にとっても非常に敏感な時期である。霜は異常に暖かい天候の後に降りたため、果樹の季節的な生育が進んでおり、低温に対してより脆弱であった。

シャヒノズ氏によると、サクランボの果樹園の一部は最大70%の損失を被った。「凍えるような天候は、早生と中生のサクランボ品種に大きな被害をもたらした。弊社の標高の高い園地の一部では、潜在的な収穫量の最大50～70%が失われた。標高が低く開花が遅い品種の園地は、無傷ではないものの影響が少なかった。花の褐変、着果不良、及び一部の地域では生育中の幼果の損傷が観察された。今年は果樹園の総収穫量が平均を大幅に下回ると予想している。」

同氏は、降霜のため収穫量が地域間で不均一になり、輸出を困難にすると指摘する。「この天候は今年トルコのサクランボの輸出に間違いなく影響する。輸出品質のサクランボの出荷が優先されるため、全国レベルの輸出量は良好に見えるかも知れないが、低温のため地域が細分化され、収穫量が不均一になる。これにより、収穫計画が複雑になり、コストが増加し、出荷可能期間の幅が狭くなる可能性がある。生産者と輸出業者が最高の収益を追求するため、残りの産地で気象条件が安定しない限り、国外のバイヤーへの安定的な供給の約束を果たすことが困難になる可能性がある。」

生産量が少ないため、輸出業者は輸出先の範囲を縮小せざるを得なくなる可能性があると同氏は説明する。「弊社では主に、ドイツ、オランダ、スカンジナビア諸国等のヨーロッパ市場に輸出しており、英国への出荷も増えている。これらの市場では、日持ちが良く高品質で大玉の果実が求められている。現在の状況を考えると、輸出に値する量を集めるため他の生産者との協力を強化する必要があると思われ、また最も安定的で利益率の高いバイヤーを優先し、輸出先の範囲を縮小する可能性がある。数量が不足する場合は、国内の小売業者との連携を強化することを検討する。」

シャヒノズ氏は、サクランボの価格が上昇するとの予想は、国内市場でも非常に現実的であると述べている。「国内生産量が減少するため、サクランボの価格はほぼ間違いなく上がるだろう。輸出品質の果実はプレミアム価格になる可能性が高いが、2級品のサクランボでさえ引き合いが増えるだろう。とはいえ、物流コスト、品質の変動のほか、国内のスーパーマーケットや卸売市場の需要に対応する必要があるため、供給量の多くが国内市場にシフトするだろう。国内卸売市場での価格は、地域や品種によって30～50%上昇する可能性がある。」

「弊社では、より短く、より困難なサクランボシーズンを予想している。収量が低下し、品質の一貫性を確保するのが難しくなる。収穫時にはより選別的に作業する必要があり、労働生産性が低下する可能性がある。しかし、価格は堅調に推移するはずであり、慎重な計画を立てることで収益性を確保したいと考えている。弊社の今年の主な重点事項は、困難な条件の下で、廃棄を最小限に抑え、優先的な契約を履行し、果実の品質を維持することである。」シャヒノズ氏は、「戦略的な柔軟性が鍵となるだろう」と結論付けた。

執筆者: ニック・ピーターズ

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)